

ごあいさつ

1999年に開館した高鍋町美術館は、2024年11月3日に25周年を迎えます。この記念すべき年に、宮崎県の観光ブームの陰の立役者として異彩を放った「画家・仲矢勝好」に注目します。

仲矢勝好は、1927年に宮崎市に生まれました。宮崎市立宮崎商業学校を卒業後、映画館の看板製作に携わり、商工会議所に勤めたのちに、1948年に宮崎交通に入社しました。広告、デザイン、イベントのアートディレクションなど幅広く手掛け、なかでもたった一人で約4年の制作期間を経て完成した「宮交シティの壁画《ガリヴァー旅行記》」は多くの県民から親しまれ、愛され続けています。

本展では、宮崎交通制作室としての仲矢のアートワークと、また仕事とは一線を画し、制作し続けた荘厳な美しさを放つ絵画作品を、一堂に展示いたします。仲矢が持ち続けた二つの表現世界を、どうぞお楽しみください。

おわりに、本展の開催にあたり、作品や資料の提供に快くご協力いただきました芝吹青位様、宮崎交通史料編纂室様、長谷川司様、MRT 宮崎放送様をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2024年10月12日

高鍋町美術館

謝辞・凡例

謝辞

本展覧会を開催するにあたり、貴重な作品を貸与してくださいました芝吹青位様、宮崎交通史料編纂室様をはじめ、作品調査・文献調査等に際しご協力、ご助言いただきました皆様に深く感謝の意を表しますとともに、お名前は差し控えさせていただきますが、本展覧会の実現のためにご尽力賜りました方々に、心からお礼申し上げます。

芝吹 青位

長谷川 司

宮崎交通史料編纂室

MRT 宮崎放送

よしみカメラ

(敬称略、順不同)

凡例

- ・本書は「仲矢勝好と宮崎交通制作室の仕事」（令和6年10月12日～11月10日 高鍋町美術館）の開催に際し出品された作品について収録した。
- ・題名が不明の作品については、「題不明」とした。
- ・図版ページの作品情報については作品番号(順路) 順に、「図版」「作品名」の順に表記した。
- ・図版ページにて図版を並列している場合は、上から下、左から右の順に掲載した。
- ・図版ページにて、10月23日（水）～10月25日（金）に行ったインターンシップ受け入れの際に宮崎県立佐土原高等学校産業デザイン科2年生が作成した解説パネルを併せて掲載した。

目次

ごあいさつ	p.1
謝辞	p.2
凡例	p.2
目次	p.3
図版	p.4
仲矢勝好作品の特質とその評価について	p.35
九州マップ.....	p.40
年譜	p.41
展示風景	p.45
作品リスト	p.49
展覧会情報	p.51
普及事業	p.54
写真提供	p.54

第1章

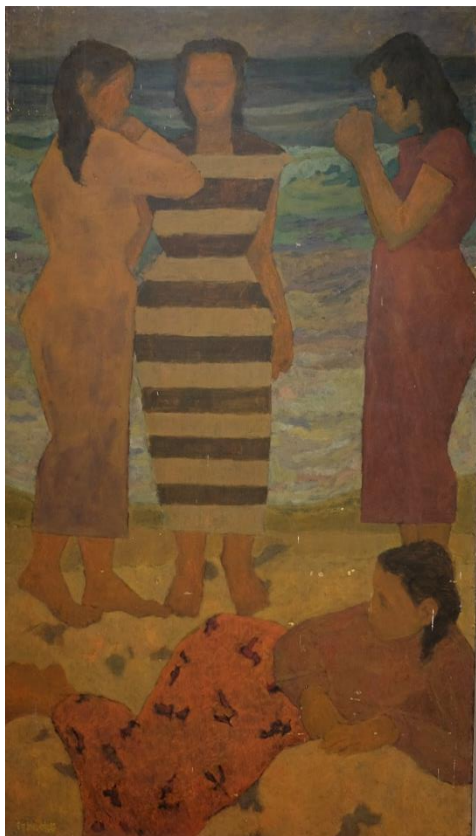
「画家」として

仲矢は、宮崎市立宮崎商業学校在学中に絵を描き始めました。そこで井手知正と出会い、終戦後は映画館の看板製作に携わります。

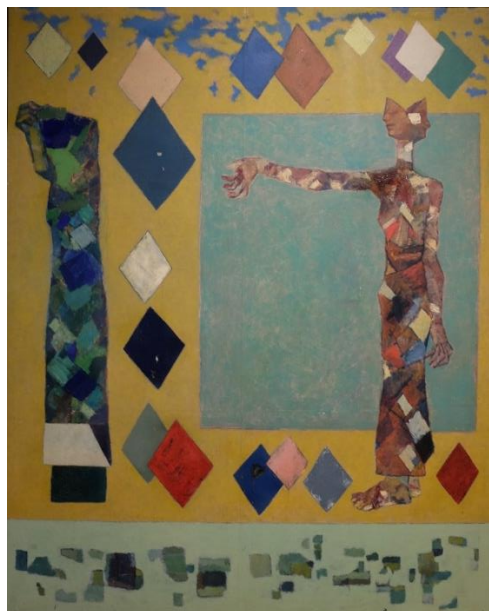
映画館で親交を深めた井手や太佐豊春とは、その後、冬芽会を結成し3回にわたりグループ展を開催しました。

他にも、6人展への参加や、県内の公募展への出品、宮崎空港での個展など、画家として意欲的な活動を行いました。

ここでは、仲矢の画家としての一面を、時系列に展示しています。



渚



板ガラス



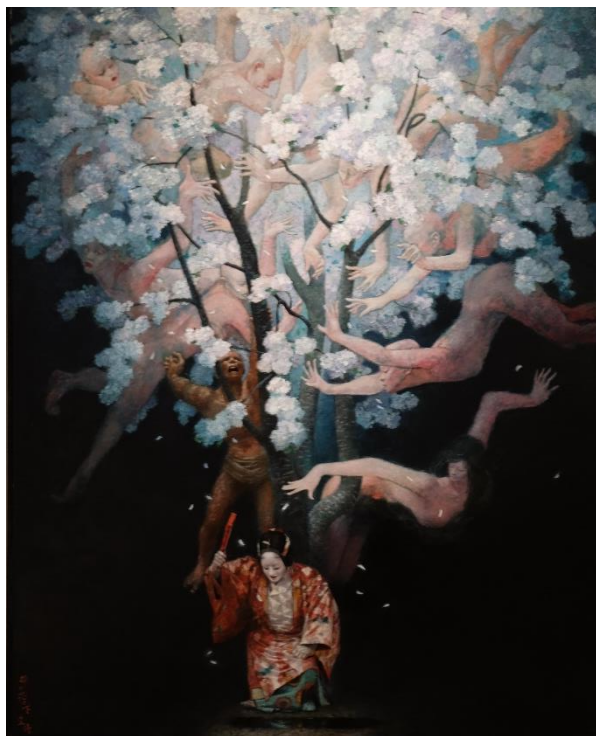
持国天



藁のコンチェルト



啓蟄



桜の花の下



喪失



かちかち山

中央には炎に包まれもがき苦しむ人と、散りばめられた木片がある。両脇には、着物を身に着けた人と白い布を纏い怪しい笑みを浮かべる女がいる。

カチカチ山は、狸がお婆さんを殺して逃走し、兎が狸の背負った芝に火をつけ仇を討つ、といった昔話である。

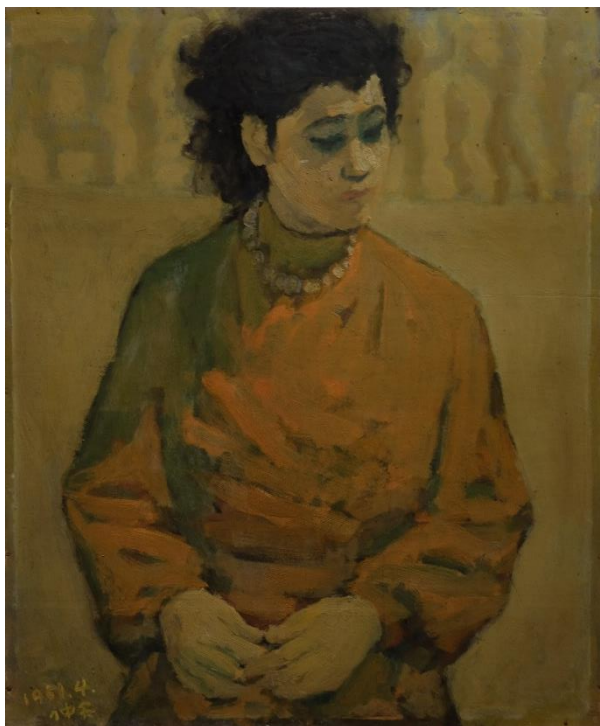
中央の人物は狸を、両脇にいるのはお爺さんとお婆さんを表現しているのだろうか。灰かき棒を持つ人物からは、灰になるまで燃やしてやるという憎しみを感じる。微笑みが言い知れぬ恐怖と謎を残す。

佐土原高校
産業デザイン科
U・Y



参考文献

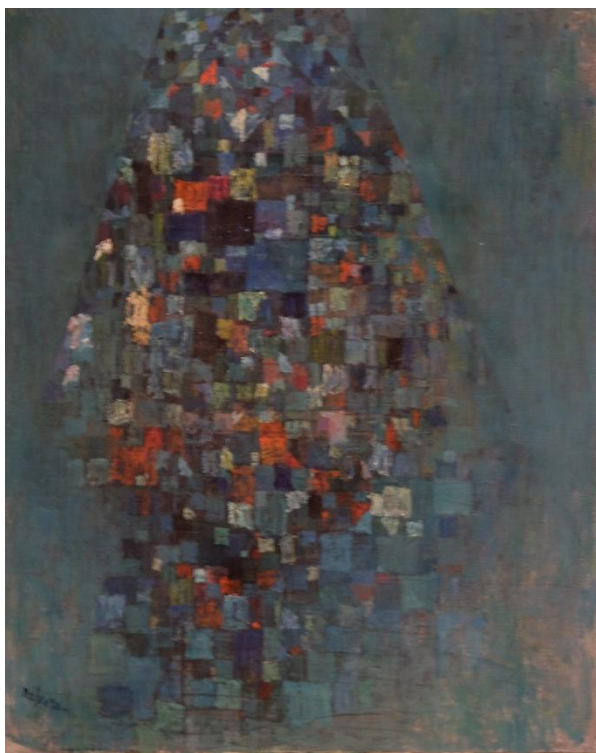
新村出『広辞苑』岩波書店、1955年。『日本昔話辞典』弘文堂、1977年。



題不明



無機質



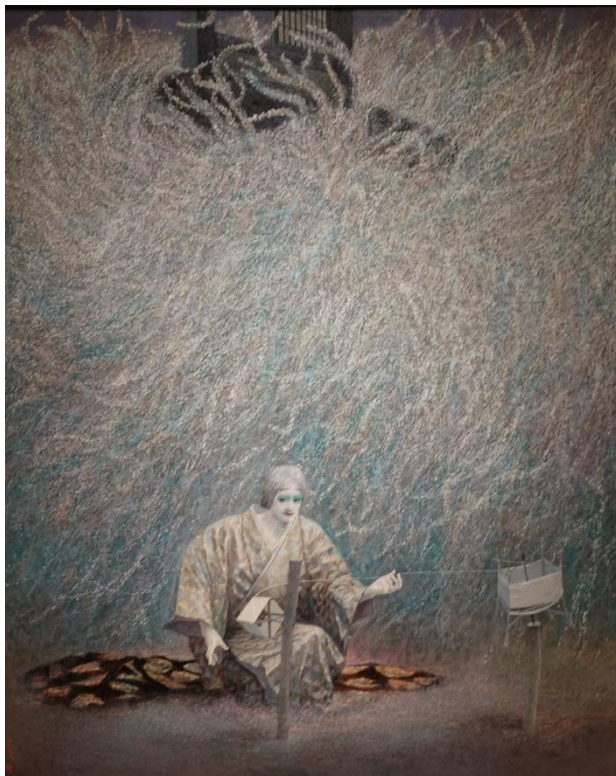
旗の消える地点



題不明



題不明



安達が原 前シテ

画面下方に座り糸を操る老婆の後ろに、青白い炎や霊気のようなものが描かれている。上方には民家だろうか、障子のある壁のようなものがみえる。
あだちがはら
 安達が原（現・福島県二本松市）にはこんな言い伝えがある。修行僧は安達が原付近で糸を操る老婆の家を見つける。なかを覗き、沢山の死者と鬼を見てしまう。逃げると老婆が走ってきて、捕らえられ血の海に引きずり込まれる。
 老婆が実は鬼であることを表すために、青白いものが強調して描かれているのではないだろうか。

佐土原高校
 産業デザイン科
 K・O



参考文献 倉橋由美子『大人のための残酷童話』新潮社、1984年。



施餓鬼

中央に苦しむ人々が、上部には水を与える人が描かれている。下部には独鈷杵や錫杖を持つ修行僧らしき人が見られる。あえて目のない人が描き分けられている描写に、「餓鬼の目に水見えず」という諺の存在を思い起こさせる。

施餓鬼とは、地獄に落ちて飢えや渇きに苦しむ人々に、食べ物や飲み物を供養する儀式のこと。作品全体から感じる炎は、祈祷のために焚いている護摩によるものだろうか。荒々しさと恐ろしさの美しい作品である。

佐土原高校

産業デザイン科

K.M



参考文献

「三省堂 現代新国語辞典 第六版」三省堂、2019年。

アルボムッレ・スマナサーラ「ブッダの質問箱 仏教まるごとQ&A」サンガ、2021年。



題不明



題不明



シジフォスの岩



紙の舟



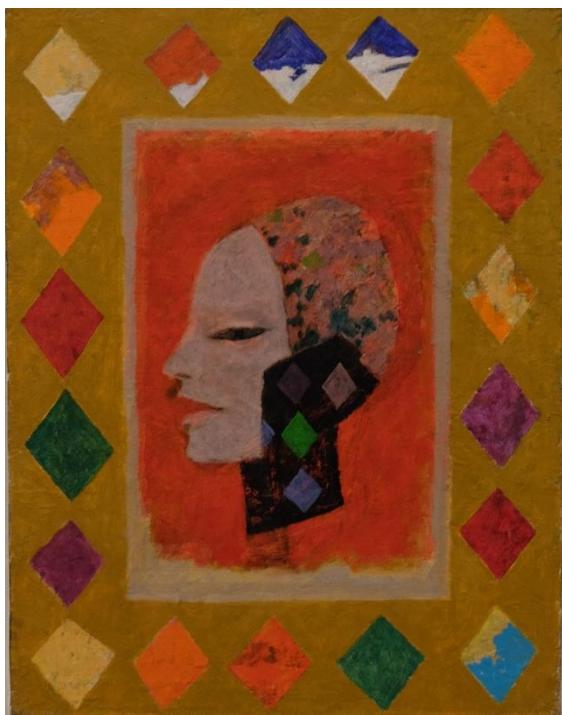
みぞれ



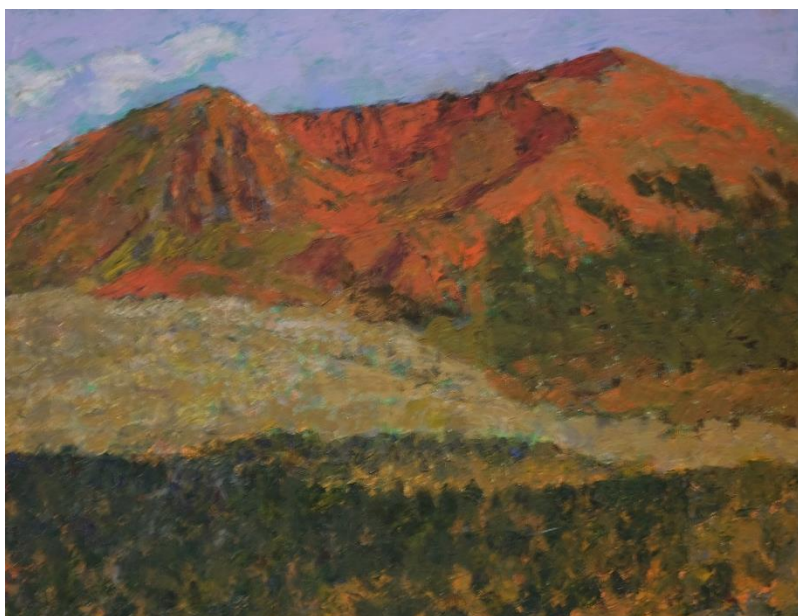
題不明



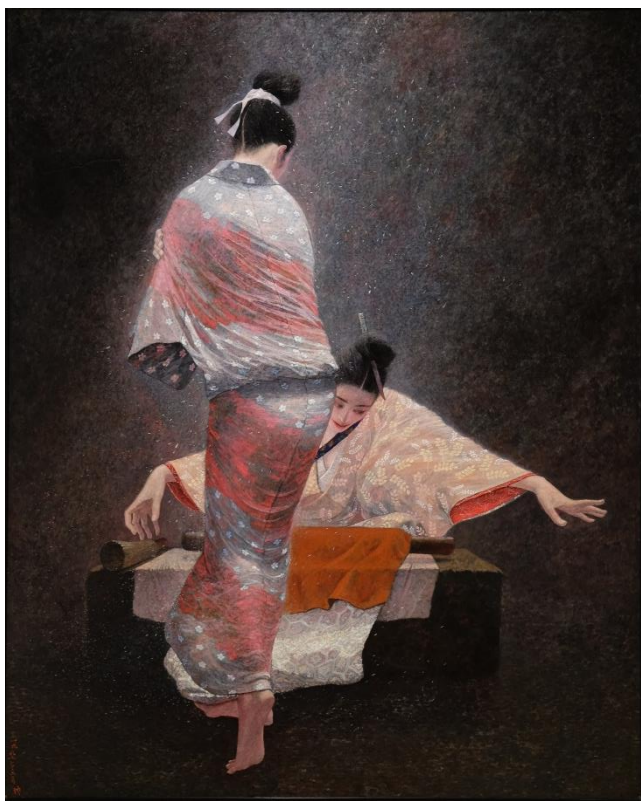
題不明



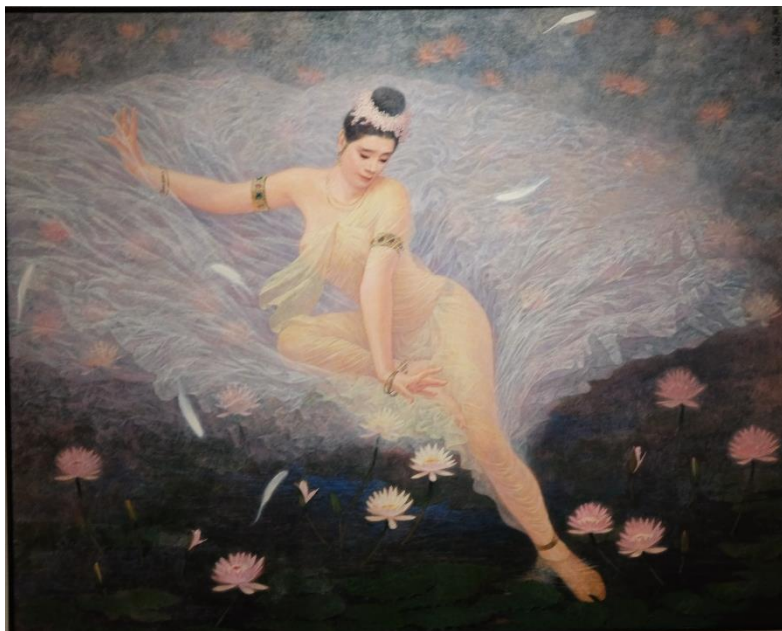
題不明



霧島山



擣衣秋風



飛天蓮塘



乞巧奠とは、裁縫などの技芸が巧みになることを願い、女性がお供え物をする祭事のこと。作品に描かれる五色の糸と箒はお供えに用いられるものである。

中国の民話・牛飼と織姫では、牛が「七人の天女が川へ水浴びに来るから、織姫の衣を隠さない。」と言い、牛飼は言われた通りにし織姫と結婚したが、衣が見つかり結局は一年に一度しか会えなくなってしまうというストーリーである。七つの水たまりは、七人の天女が水浴びをする話の一部を抽象化したものとも受け取れる。

中央の女性は牛飼に衣を隠されていた織姫だろうか。

佐土原高校

産業デザイン科

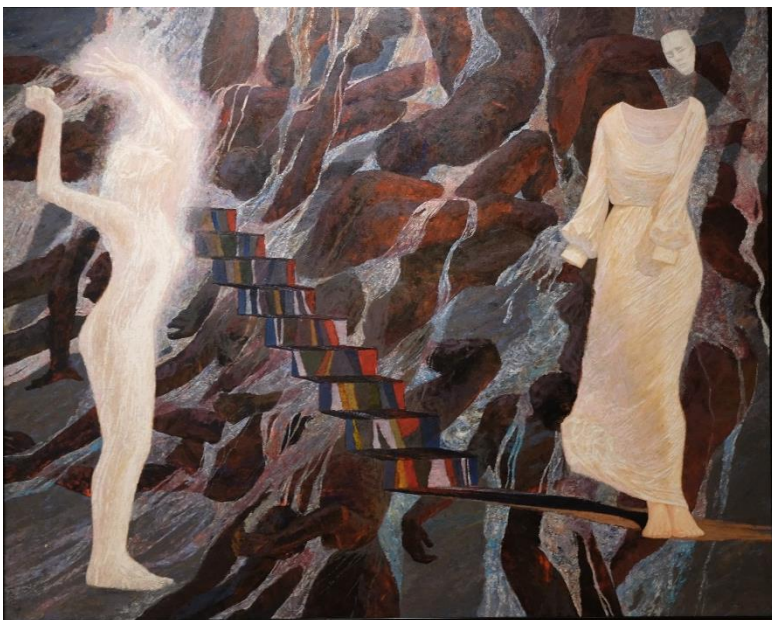
Y. S



参考文献

君島久子選訳『けものたちのないしょ話 中国民話選』岩波書店、2001年。

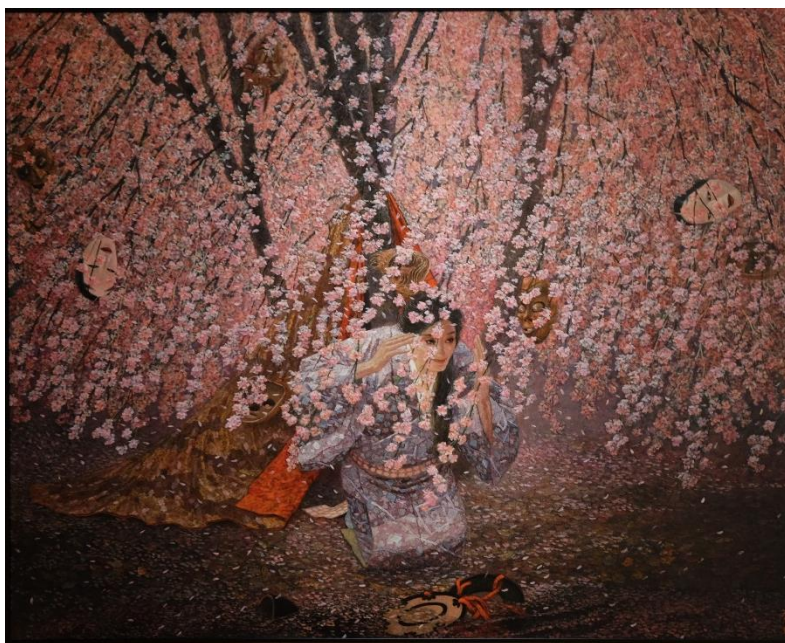
乞巧奠



階前に搏つ



夕鶴



綾の鼓

座っている妖しい女と能面、沈みかけた鼓が描かれている。綾の鼓とは、能楽の演目である。老いた男が若く美しい女に恋心を抱く。女は音のならない鼓を渡し、男は女のために鼓を鳴らそうとする。鼓を鳴らそうと打ち続けた男は、ついには絶望し池に入り死んでしまう。

幽鬼となった男は鳴らぬではないかと女を責め女は身をおののき泣き叫ぶ。仲矢は、その場面をあえて女が不気味な表情で覗く様子で表現する。能面は顔の衰えや醜さを隠すために用いられる。しだれ桜には「ごまかし」という花言葉がある。悲しげで不気味な絵である。

佐々原 高枝

落葉千景人二科

H・T



参考文献 悦田喜和男『綾の鼓』皆美社、1971年。



春尽落飾



白い立夏の風



題不明（絕筆）



題不明



題不明



杳兆さん



けしとかすみ草



題不明

第2章

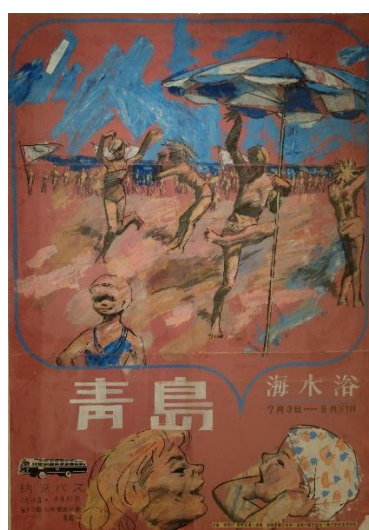
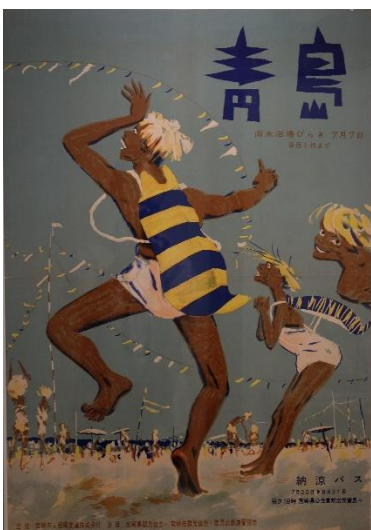
「宮崎交通制作室室長」として

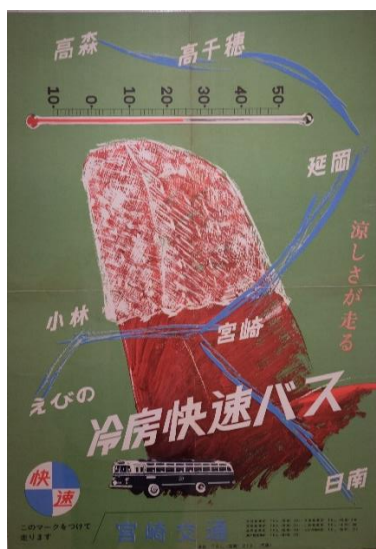
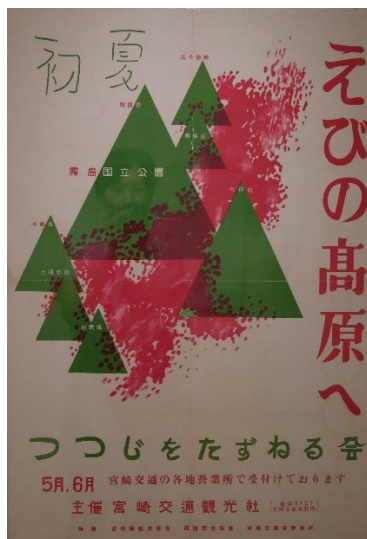
仲矢は、1948年に宮崎交通に入社し、宮崎県を日本有数の観光地に育て上げた宮崎交通の初代社長・岩切章太郎と出会います。

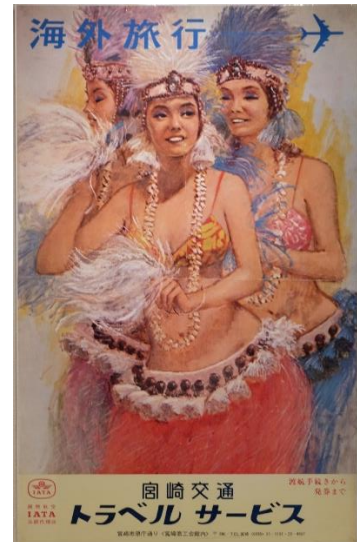
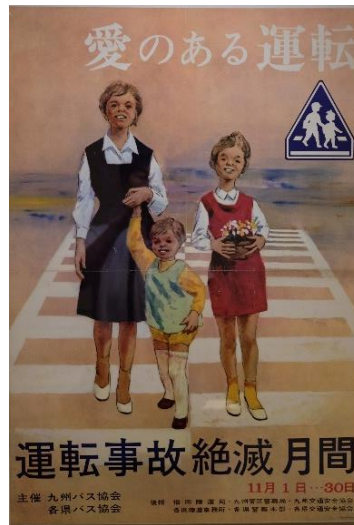
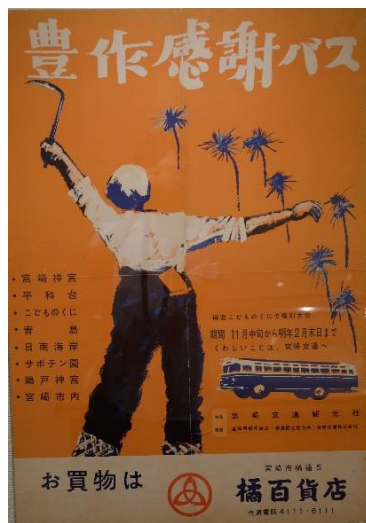
岩切は「観光とは、『知らせる』、『見せる』、『また来たいと思わせる』の三つだ」と語っており*、そのうちのひとつ「知らせる」つまり観光地・宮崎の魅力を周知する一の大部分を仲矢が担ったと言われています。

ここでは、宮崎交通制作室の仕事のなかでも、仲矢が中心に手掛けられた広告や図案、景観デザインなどについて展示しています。

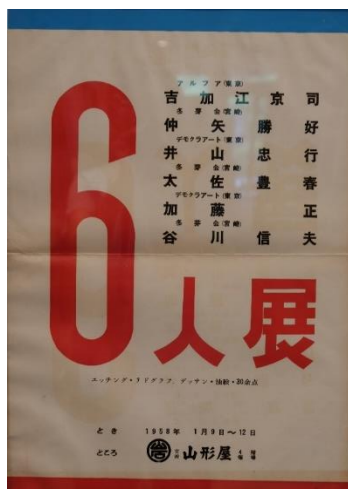
*『大地に絵を描く』鉾脈社、2013年。



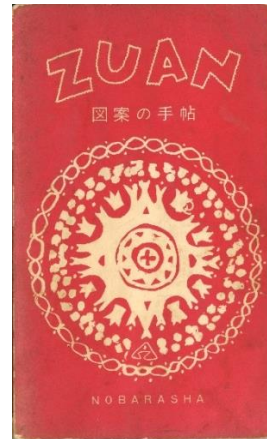




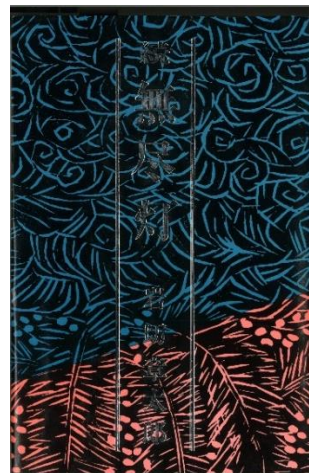
宮崎交通制作室によるポスター



6人展ポスター



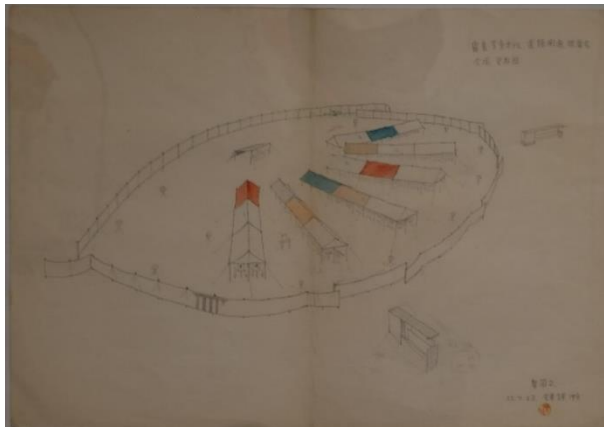
宮交バス 図案原画 書籍『ZUAN 図案の手帖』



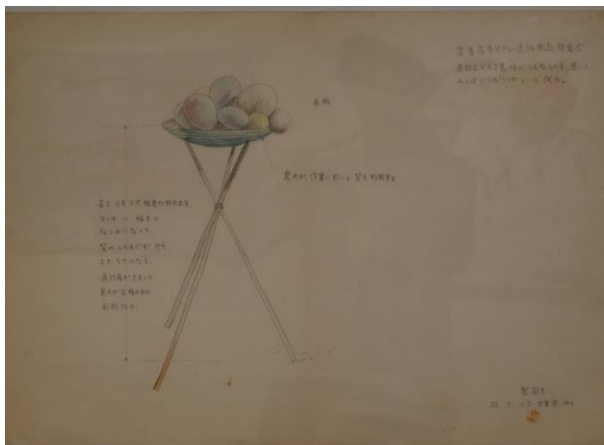
『続 無尽灯』版木 書籍『続 無尽灯』



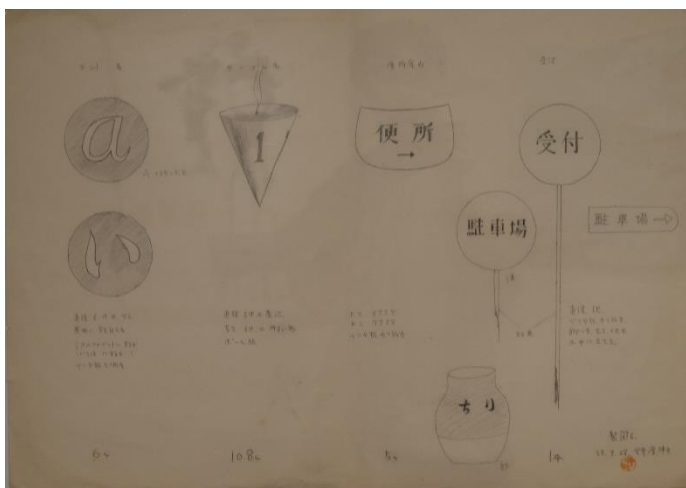
霧島高原ホテル道路開通披露会
会場附近想像図



霧島高原ホテル道路開通披露会
会場見取図



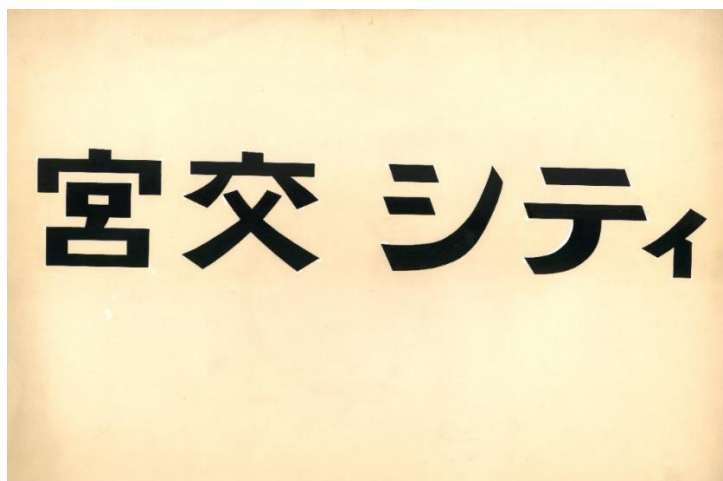
霧島高原ホテル道路開通披露会
試み



霧島高原ホテル道路開通披露会
案内看板



凶案集



宮交シティ図案



都井岬直通バス広告 都井岬直通バス広告 原画

88 号 プラン

名にを(し)ごとの名前) 紋提灯 制作室作業カード 親子

いつまでに 55年4月20日() 55年4月20日()

1. 希望、要求、条件、内容など詳しく書いて下さい。2. 必要があれば参考品・見本などを添えて下さい。(※別紙のしごと)

延長47mm ~ 50mm 14. 60 4mmの竹 - 10F 4mm

1. さんのためか.....(目 5) いつも心に思い掛け、そして徹底的に書き記せ
2. さんの.....(目 10)
3. さんなわけか.....(目 15)
受付 いつ 55年4月14日 どこから 誰から 連絡先 TEL

※ 1 図のカードは1つのしごとをわいて下さい。

88 号 プラン

名にを(し)ごとの名前) 壁画(カクマツ) 制作室作業カード 親子

いつまでに 55年4月30日() 55年4月30日()

1. 希望、要求、条件、内容など詳しく書いて下さい。2. 必要があれば参考品・見本などを添えて下さい。(※別紙のしごと)

カクマツ ~ ウラハス 82

1. さんのためか.....(目 5)
2. さんの.....(目 10)
3. さんなわけか.....(目 15)
受付 いつ 55年4月14日 どこから 誰から 連絡先 TEL

※ 1 図のカードは1つのしごとをわいて下さい。

88 号 プラン

名にを(し)ごとの名前) 取付の 壁画(カクマツ) 制作室作業カード 親子

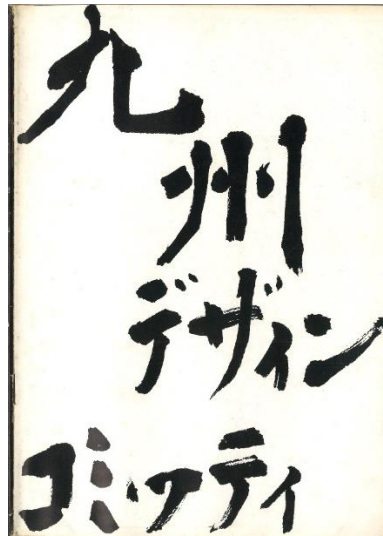
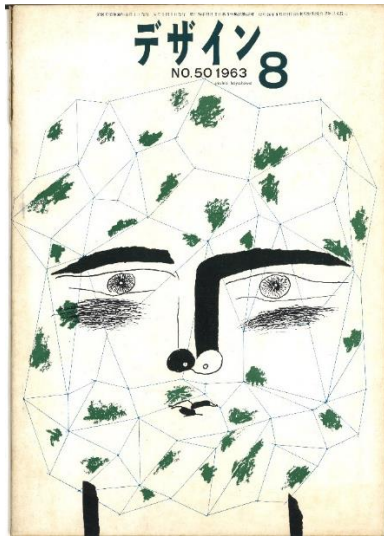
いつまでに 55年4月20日() 55年4月20日()

1. 希望、要求、条件、内容など詳しく書いて下さい。2. 必要があれば参考品・見本などを添えて下さい。(※別紙のしごと)

1. さんのためか.....(目 5)
2. さんの.....(目 10)
3. さんなわけか.....(目 15)
受付 いつ 55年4月14日 どこから 誰から 連絡先 TEL

※ 1 図のカードは1つのしごとをわいて下さい。

制作室作業カード



書籍『デザイン』No. 50

書籍『九州デザインコミッティ』

(上記書籍2冊は仲矢の仕事についての紹介ページがあるため展示)

第3章

「パブリックアート」「パブリックコレクション」

宮交シティに設置されている壁画《ガリヴァー旅行記》で知られる仲矢ですが、実は宮崎交通制作室としての仕事とは別に、公共施設の壁画や緞帳のデザインを依頼されることがありました。

本展を機に、仲矢が手掛けたパブリックアートについて調査したところ*、県内各地および県外にも存在することが判りました。画家として、制作室室長としての顔を持ちながらこれらを手掛けたことから、仲矢のバイタリティ溢れる仕事ぶりがうかがえます。

一方で、施設の老朽化などを理由に閉鎖や撤去の現状もあります。ここでは、九州各地の所在するパブリックアートの現状と、絵画作品の所在地（パブリックコレクション）を中心にご紹介いたします。

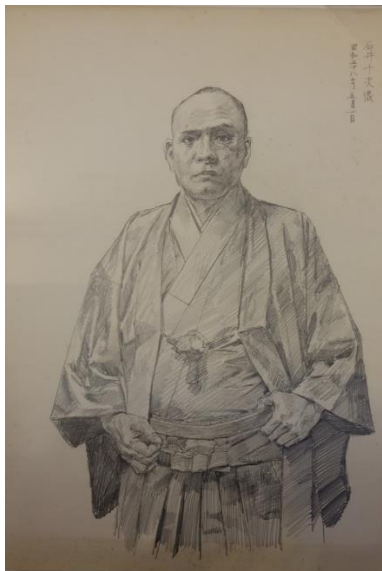
*長谷川司「仲矢勝好作品資料集」（2016年）の情報をもとに、各施設や関係者への電話聞き取りにて現状を確認し、画像をご提供いただいた。



書籍『ガイドみやざき』（仲矢の手掛けた広告面を展示）



陶壁下絵



「石井十次」素描



壁画「ガリヴァー旅行記」（写真にて展示）



緞帳エスキース

仲矢勝好作品の特質とその評価について

高鍋町美術館 学芸員 青井 美保

「県民に親しまれてきた、巨大なガリヴァー壁画を手掛けた仲矢勝好の初回顧展」展覧会フライヤーの裏面に載せるキャッチコピーに、こう記した。宮崎県民にとって仲矢勝好の名を知る機会をもっとも提供しているのが、宮交シティにある32mの巨大壁画の存在である。一方で、鹿児島県で仲矢の名を出すと、「知覧特攻平和会館の壁画」と人々は口にする。また、美術愛好家にとっては、宮崎県立美術館が所蔵する4点の絵画作品―特に「櫻川」(1985年)―や、在りし日に宮崎県美術展や宮日総合美術展に毎年出展された100号クラスの人物画の印象が大きいようだ。

しかし私たちは仲矢の仕事の全貌を、あまりにも知らなかった。身近に目にしていた観光バスのポスターや、バス停にあった四季折々の看板、宮崎交通や宮交シティのロゴに至るまで、仲矢にはいくつもの顔がある。

本展は、この仲矢勝好という人物―画家、制作室長、デザイナー、アートディレクター―がどのような変遷を辿ってその画業を成したのか、それを整理し調査する機会として立ち上げたものである。

仲矢は、これまで回顧展が一度も無い作家のままでは、惜しい作家であった。宮崎県には公立美術館が3館しかない。宮崎県内の作家については各館が調査研究を継続すべきものである。高鍋町美術館にも、小さな町の美術館ながら、その使命があると、筆者は常に考えている。そんな折に、仲矢家の次女にあたる芝吹青位氏とお会いする機会があり、生前の作品を大切に管理しておられることを知った。その量が、当館の小さな展示室ではすぐにいっぱいになってしまう量だったため、今回は文化施設等が所蔵している作品はお借りせず、「九州マップ」¹という形で作品や公共施設内の壁画や緞帳等の現状をまとめた。

仲矢が絵を描くことを生業としたきっかけに、井手知正の存在がある。井手は1926年に生まれ、2021年に没している。宮崎商業学校では仲矢と同級生である。戦後まもなく、井手は宮崎市内で映画看板の製作をはじめ、仲矢はその手伝いをする形で絵を描く仕事を始めた。このことは、仲矢のその後の制作に大きく関わることになる²。仲矢作品の背景に物語があることも、映画看板から始まったことと無関係とは言えないだろう。

宮崎交通での仕事については、芝吹氏に宮崎交通史料編纂室を紹介していただき、編纂室の山田恵美男氏にご協力いただいた。観光県として大きな盛り上がりを見せた昭和30～40年代の旅行ポスターやロゴデザイン、イベント設計図など貴重な資料をお借りできることとなった。編纂室にはたくさんのポスターが存在したが、制作室には常に複数名のスタッフがおり、すべてのデザインを仲矢が手掛けたわけではないという点に配慮した。当時、仲矢の仕事を一番近くで見ていた山田氏に、どの仕事が仲矢によるものかを確認しながら

¹ 本書P.39参照

² 長谷川司「先生と呼ばれるほどの物ではなく 一生では足らず、二生を生きる 井手知正」2022年。

資料を選定することとした。

驚いたことに、仲矢が手掛けたものは広告デザインだけでなく、バスのヘッドマークのデザインやサボテン公園の包装紙、宮崎交通が営んでいたレストランやボウリングセンターのロゴデザイン、ホテルの内装（本展では編集室より「作業室カード」を展示）、イベントのディスプレイ（本展では編集室より「霧島高原ホテル道路開通披露会」の想像図や見取図を展示）まで手掛けていた。

渡辺綱纜氏は「日南海岸でも、えびの高原でも、岩切章太郎社長の行くところ、いつもスケッチブックをかかえた仲矢さんの姿があった」³と表現している。この文章と「霧島高原ホテル道路開通披露会」のスケッチを照らし合わせると実に興味深い。「想像図」には、高原全体を俯瞰した構図に、ホテルと披露会会場の位置関係が分かる全体イメージが描かれている。「見取り図」では、披露会会場をズームインした構図となっており、会場にどのようなものが設置されているかの全体像が掴める書き込みがある。「試み」と描かれたスケッチでは、披露会会場のなかに小さく書き込まれている自立式の立体物が、材料の情報とともに詳細に描かれている。会場に配置する受付ブースやテントに取り付ける看板の一つひとつに至るまで、仲矢が手書きでイメージを可視化し、作成していることが分かる。岩切章太郎が仲矢とともに高原ホテルへ足を運び、どのような披露会としたいかのイメージを仲矢へ伝える。そして、仲矢がそれをスケッチにしたための姿が目に見えようである。

岩切が仲矢を信頼していたことが、岩切の発言に残っている。

「今日は仲矢君という専門家がおりますから、仲矢君に頼めば何でもうまくやってくれますから、皆んな安心しておりますけれども、昔はそうでございませんでしたから、皆んなが苦心惨憺して、その宣伝ビラも作ったもんです。」

岩切章太郎「第四十八回創立記念講話 遊び駒を作るな」1974年

昭和52年、宮交シティの3階から2階に降りる階段の取り付けと改装が決まったときに、「そこにあった大きな壁はなんとかならないかという宿題がでた」⁴と、仲矢は後述している。その大きな壁（幅32m、高さ3.6m）を埋め尽くすには、どのようなテーマがよいだろうかと、仲矢自身も悩んだことと思う。本展には壁画「ガリヴァー旅行記」と表現方法や構図の類似する作品が出展されている。「施餓鬼」（1978年）は、修行僧や地獄に落ちて苦しむ人々による群像を描いている。仲矢は自身の制作においても、一人または二人の人物画だけでなく、群像にも関心を持っていたのである。ガリヴァー旅行記の除幕式に寄せたコメントには、こうある。

「この広さは、ただ絵本を延長するだけでは持ちきれませんので、構図の端から端までの

³ 渡辺綱纜「岩切イズムに生きた仲矢勝好さん」宮崎日日新聞、1992年12月11日11面。

渡辺綱纜『翔ベフェニックス』P.190、鉦脈社、1996年。

⁴ 「～階段の取り付けと改装が決まりましたときに、この大壁はなんとかならぬかという宿題がでましたので、～」
ごあいさつにかえて「太陽とコムバス」P.13、1981年。

造形上の連絡、人間集団のからみ、或いは語りをリアルに、ドラマチックに組み上げることが要求されます。」

仲矢勝好「ごあいさつにかえて『太陽とコンパス』」1981年

他にも「喪失」(1975年)や「階前に搏つ」(1988年)などで、複数の人物や群像を描いている。仲矢に言わせると、人間は「不可解で最も面白い」⁵のだという。

宮崎交通社員として、宮崎県民が目に触れるものを手掛けた仲矢だが、個人的にも(もちろん、宮崎交通を経由しての話も多かっただろうが)様々な依頼を受けていた。特に公共施設の緞帳や壁画などは数が多い。それらの仕事にはいくつかのキーワードが見えてくる。①平和、②子ども、③地域性、である。

1. 平和

鹿児島県の知覧特攻平和会館に開館当初から設置されている「知覧鎮魂の賦」(1987年)では、燃える機体と特攻隊員、天女が描かれており、折れた桜に飛び散る花びらが印象的である。仲矢の青春時代は戦禍のなかであり、徴兵されることはなかったとはいえ戦時中は勤労動員され、奈良鐵工所において旋盤工⁶を務めている。仲矢の次女・青位氏の記録によると、時折「戦争はいけない」とつぶやいていたという⁷。画面に用いた炎や桜の枝などのモチーフは、本展にて展示した作品のなかにも存在している(「かちかち山」1976年、「桜の花の下」1975年)。「ガリヴァー旅行記」も同様だが、仲矢はキャンバスで描いてきたものを再構成してパブリックアートに反映させる手法を用いたのではないだろうか。同じ作風のものに「中有天籟」(1986)年、「飛天蓮塘」(1987年)が挙げられる。

2. 子ども

仲矢の作風は非常に幅が広いが、一部には、子どもに喜ばれることを強く意識した作品が見受けられる。特徴的なものに、緞帳「銀河」(1977年・串間市民総合体育館)がある。筆者は、仲矢が手掛けたものとは初見では信じられなかった。南の夜空と海の上が描かれており、かわいらしく、空想的な表現である。「銀河」というモチーフ自体は、1973年に宇宙ミュージアム⁸が開館を機に、仲矢が五藤光学研究所の関係者とのやりとりを通して、仲矢の関心が高まった可能性がある。⁹また、本展ではほとんど触れられなかったが、このものに(宮崎市・青島)のビジュアル面を手掛けたことも忘れてはいけない。

⁵ 「この人」宮崎日日新聞、1981年2月4日。

⁶ 学徒動員によるもの。軍用機向上などで飛行機の部品をつくる仕事。

⁷ 「『戦争はいけない』と、時折、ひとりごとのようにつぶやいていた。」

芝吹青位『仲矢勝好作品 宮崎交通制作室の仕事』よしみカメラ、2023年。

⁸ 宇宙ミュージアムは、1973年に宮交シティ内に開館。プラネタリウムとアストロビジョン(全天周映像映写機)を設置。

⁹ 長谷川司「壁のレミューエル・ガリヴァー」2017年。

3. 地域性

仲矢は依頼先の地域性を重んじてモチーフを決定している。たとえば神楽（壁画「高千穂神楽」1985年3月・旧宮崎厚生年金会館、高千穂神楽（壁画「五穀」1985年・高千穂コミュニティセンター）、埴輪（壁画「上古杳渺」1988年・西都市民会館）、茶畑（壁画「八十八夜」1987年・鹿児島市役所松元支所）などがそれである。これは、青島海水浴の広告では海水浴場の様子を描き、都井岬直通バスの広告では馬とバスの絵を描いたように、象徴的なものを描く「職人として」¹⁰の仲矢の手法といえるだろう。

仲矢の生涯を眺めたとき、意外な交流に気が付いた。それが、太佐豊春や伊藤旭、加藤正などといった抽象画家たちとの交流である。1950年の冬芽の会の結成から、初特選を宮崎県美術展で受賞した「無機質」（1955年）の制作時期のころまで、仲矢が宮崎交通で過ごした20代に残された作品は、抽象度の高い表現が多い。宮崎県内では瑛九（1911～1960）や塩月桃甫（1886～1954）など、前衛的な表現が注目と憧れのまなざしを浴びている時代である。太佐と交流があったことから¹¹、仲矢がこの一連の美術的動向を知っていた可能性は高く、仲矢自身も時代の表現に挑戦していたということになる。その後、人物画を中心とした表現へと定まっていくのだが、生涯、画面のなかに抽象的な表現は少なくなかった。「喪失」（1975年）や、「階前に搏つ」（1988年）などがそれである。

仲矢の個人的な制作と宮崎交通制作室の仕事は、それぞれに特徴が明確である。宮崎交通では、明瞭簡潔な表現で一貫している。観光客から、あるいは岩切章太郎から求められたであろう南国宮崎のイメージ、たとえば日に焼けた笑顔の人、青い海、バスの最新設備、花の鮮やかな色彩、生き生きとした動物たち、リゾート感たっぷりのホテルなどが描かれた。

一方、個人的な制作では、一見明快な表現のなかに、不明瞭な、あるいは難解な要素を内包させている。人間の複雑な心情、恐ろしさ、恨み、悔い、死者の存在や魂などが描かれた。

仲矢は、作者として仕事や作品について多くを語らないスタイルであったため、ヒントとなるのは、作品の背景にある物語を伝える役割を果たす作品タイトルのみである。人間の喜怒哀楽をキャンバスに描きうつし、人間存在を問う。それが仲矢作品の魅力である。

仲矢は一見「時代の人」であった。観光宮崎をアートの側面から支え、盛り上げた人であった。しかしそれは、宮崎交通制作室長としての一面からの評価でしかないのではないか。仲矢は、求められるものに応えながらも、求められないものを追い求め続けた。ここに仲矢の美術への深い情熱が見てとれる。本展によって、「分かりやすい絵」を描きながら「いい絵とはなにか」と問い続けた画家の、表現の変遷が見えてきた。

¹⁰ 「やや職人的なところのある、しかし視野のひろい、暖かな感覚をもったすぐれたデザイナーである」

『デザイン第50号』P.16、美術出版社、1963年。

¹¹ 「瑛九からの強い感化を受け、その影響下で成長した太佐豊春がいる」

『空、海、山、川…郷土の風土が育んだ 宮崎の洋画100年展』P.5、宮崎県立美術館、2007年。

仲矢勝好作品の特質とその評価について

参考文献

芝吹青位『「仲矢勝好作品 宮崎交通制作室の仕事」よしみカメラ、2023年。

『デザイン第50号』美術出版社、1963年。

仲矢勝好「ごあいさつにかえて『太陽とコムパス』」1981年。

長谷川司「仲矢勝好作品資料集」2016年。

長谷川司「壁のレミューエル・ガリヴァー」2017年。

長谷川司「先生と呼ばれるほどの物ではなく 一生では足らず、二生を生きる 井手知正」2022年。

岩切章太郎『大地に絵をかく』鉾脈社、2013年。

岩切章太郎「第四十八回創立記念講話 遊び駒を作るな」1974年。

渡辺綱纒「岩切イズムに生きた仲矢勝好さん」宮崎日日新聞、1992年12月11日11面。

渡辺綱纒『翔ベフェニックス』鉾脈社、1996年。

渡辺綱纒『エッセイ集・フェニックスの木陰』鉾脈社、2019年。

『空、海、山、川…郷土の風土が育んだ 宮崎の洋画100年展』宮崎県立美術館、2007年。

世阿弥『風姿花伝』岩波書店、1958年。

増田正造『世阿弥の世界』集英社、2015年。

仲矢勝好アートワーク 九州マップ



① 渡川 (1985 年) 宮崎県立美術館蔵



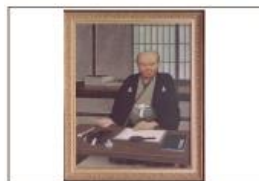
② 安達が原 (1986 年) 宮崎県立美術館蔵



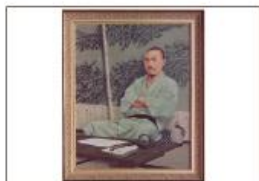
③ 神明花天 (1986 年) 宮崎県立美術館蔵



④ 春夜紅顔ノ蛇衣 (1992 年) 宮崎県立美術館蔵



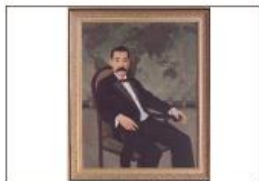
⑤ 安井島新 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵



⑥ 若山秋水 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵



⑦ 相越通 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵



⑧ 小村寿太郎 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵



【掲載作品】

- ① 渡川 (1985 年) 宮崎県立美術館蔵
- ② 安達が原 (1986 年) 宮崎県立美術館蔵
- ③ 神明花天 (1986 年) 宮崎県立美術館蔵
- ④ 春夜紅顔ノ蛇衣 (1992 年) 宮崎県立美術館蔵
- ⑤ 安井島新 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵
- ⑥ 若山秋水 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵
- ⑦ 相越通 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵
- ⑧ 小村寿太郎 (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵
- ⑨ 伊東マンショ (1983 年) 宮崎県総合博物館蔵
- ⑩ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑪ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑫ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑬ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑭ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑮ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑯ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑰ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑱ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑲ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵
- ⑳ 岩切草太郎肖像 (制作年不明) 宮崎県立美術館蔵

・掲載している作品・複製等は、常設展示や一般公開をしていないものが含まれます。
・紙幅の都合により、☆マークに所在する(した)作品等の画像のみ掲載しています。
・☆マーク以外の作品等の複製(匿名・制作年)については、年譜に掲載しています。

【地図】

- ① 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ② 宮崎県総合博物館 (宮崎市) ☆
- ③ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ④ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑤ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑥ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑦ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑧ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑨ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑩ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑪ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑫ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑬ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑭ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑮ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑯ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑰ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑱ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑲ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆
- ⑳ 宮崎県立美術館 (宮崎市) ☆



⑳ 神神幸 (1965 年) 宮崎市民会館蔵 宮崎市提供



㉑ 渡川刀里 (1985 年) ニューウェルシティ宮崎蔵
※2025 年 3 月までに撤去予定



㉒ 橋通 (1987 年頃)



㉓ 渡川刀里 (1972 年) 都井岬観光ホテル壁画※複製



㉔ 五穀 (1985 年) 高千穂町コミュニティセンター蔵



㉕ おかしの家みうら (制作年不明) おかしの家みうら



㉖ 中村有次郎 (1986 年) 法政会館



㉗ 鶴岡の賦 (1987 年) 知覚特夜平和会館蔵



仲矢 勝好 年譜



- 1927年 0歳 宮崎県宮崎市に仲矢伊野吉・ツヤの次男として生まれる
- 1943年 16歳 宮崎市立宮崎商業学校を卒業
勤労働員で奈良鉄工所において旋盤工を務める
- 1947年 20歳 映画館の看板製作に携わる
商工会議所に在職し会計係を務める
- 1948年 21歳 宮崎交通（広告・デザイン・制作室）に入社する
- 1950年 23歳 冬芽（とうが）会（井手知正、伊藤旭、谷川信夫、富高文、仲矢勝好、太佐豊春）を結成し、その後、商工会議所にて
展覧会を3回開催する
- 1953年 26歳 古賀 洋（よう）と結婚する
《題不明》を制作する（現在は宮崎看護専門学校蔵）
- 1954年 27歳 宮崎交通の営業課制作係に所属する
- 1955年 28歳 宮崎県美術展にて《無機質》が特選を受賞する
長女・里絵（りえ）生まれる
- 1958年 31歳 宮崎山形屋で開催した「6人展」（1月9日～1月12日 /
吉加江京司・仲矢勝好・井山忠行・太佐豊春・加藤正・谷川
信夫）に出品する
- 1960年 33歳 次女・青位（あおい）生まれる
『文藝春秋』掲載の広告を手掛ける（～1967年）
- 1961年 34歳 宮崎交通が観光部を設置する
仲矢は制作係に所属する

- 1963年 36歳 月刊誌『デザイン』（美術出版社）8月号にて浜口隆一、仲矢勝好による「宮崎交通のデザインポリシー」が掲載される
- 1964年 37歳 宮崎観光の観光部制作係が独立し、制作室となる
室長を務める
- 1965年 38歳 宮崎市民会館の緞帳「御神幸」のデザインを手掛ける
- 1972年 45歳 都井岬観光ホテルの壁画「波濤万里」を手掛ける
『続無尽灯』岩切章太郎（講談社）の装幀を手掛ける
- 1974年 47歳 宮崎交通社史編纂室長を兼務（9月～）
宮崎県美術展にて《かちかち山》が特選を受賞する
- 1976年 49歳 宮崎交通創立50周年記念式典が開催される
『宮崎交通50年史年表』が発行される
- 1977年 50歳 宮交シティの壁画「ガリヴァー旅行記」に着手する
串間市民総合体育館の緞帳「銀河」のデザインを手掛ける
《猩猩亂》を制作する（宮崎市立図書館蔵）
- 1978年 51歳 串間市役所庁舎のロビーの陶板壁画「黒潮」を手掛ける
- 1979年 52歳 『図案の手帖』（野ばら社）に仲矢の図案が掲載される
- 1980年 53歳 「ワイドサタデー」（朝日放送）に出演（6月7日）
『一木一草 続々無尽灯』岩切章太郎（講談社）の装幀を手掛ける
宮崎県美術展にて《啓蟄》が特選を受賞する
- 1981年 54歳 宮交シティの壁画「ガリヴァー旅行記」の除幕式が実施される
- 1982年 55歳 宮崎交通を退社する
宮崎日日新聞「ふるさとの調べ」（文・原田解）連載挿絵を担当する
「窓をあけて九州『いつでも夢を』」（MRT 宮崎放送）に出演（3月14日）

- 1983年 56歳 宮崎市内にアトリエを構える
宮崎日日新聞「上杉鷹山物語」（文・渡部図南夫）連載挿絵を担当する
宮崎県置県百年を記念した肖像画6点（伊藤マンショ・川越進・若山牧水・安井息軒・石井十次・小村寿太郎）を手掛ける（現在は宮崎県総合博物館が所蔵）
- 1984年 57歳 宮崎日日新聞「安井息軒」（文・岩元真二）連載挿絵を担当する
宮崎日日新聞「藤江監物」（文・城雪穂）連載挿絵を担当する
- 1985年 58歳 宮日総合美術展にて《櫻川》が特選を受賞する（現在は宮崎県立美術館が所蔵）
宮崎厚生年金会館（現・ニューウェルシティ宮崎）の陶板壁画「岩戸神楽」の原画と緞帳「波濤万里」のデザインを手掛ける
高千穂町コミュニティセンターの陶板壁画「五穀」の原画を手掛ける
宮崎交通の創業者・岩切章太郎氏が逝去する
- 1986年 59歳 法倫会館（長崎県）の陶板壁画「中有天籟」の原画を手掛ける
- 1987年 60歳 夕刊デイリー「わだつみの詩」連載挿絵を担当する
知覧特攻平和会館（鹿児島県）の陶板壁画「鎮魂の賦」の原画を手掛ける
鹿児島県松元町庁舎（現・鹿児島市役所松元支所）の陶板壁画「八十八夜」の原画を手掛ける
- 1988年 61歳 『わたしの岩切さん』（鉦脈社）に仲矢の文章が掲載される
《天石屋戸》を制作する（現在は宮崎市中央公民館が所蔵）
宮日総合美術展にて《階前に立つ》が奨励賞（県村長会長賞）を受賞する

- 西都市民会館の陶板壁画「上古杳渺」の原画を手掛ける
野崎病院の陶板壁画「創造化育」の原画を手掛ける
- 1989年 62歳 宮日総合美術展にて《夕鶴》が奨励賞（テレビ宮崎社長賞）を受賞する
- 1991年 64歳 「高千穂神楽」の絵が平成3年お年玉年賀はがき地方（宮崎）版に採用される
宮崎空港ビルで「仲矢勝好空港展」（10月1日～10月31日）を開催する
- 1992年 65歳 宮日総合美術展にて《春夜紅怨ノ蛇衣》が特選（宮崎銀行頭取賞）を受賞する（無鑑査入り）
《春夜紅怨ノ蛇衣》が絶筆となる（現在は宮崎県立美術館が所蔵）
自宅にて急逝
- 1996年 宮交シティがリニューアル・オープンし、ガリヴァー広場が完成する
- 1997年 『週刊朝日』にて永六輔が壁画「ガリヴァー旅行記」について“観光地に負けない迫力と魅力”と表現する

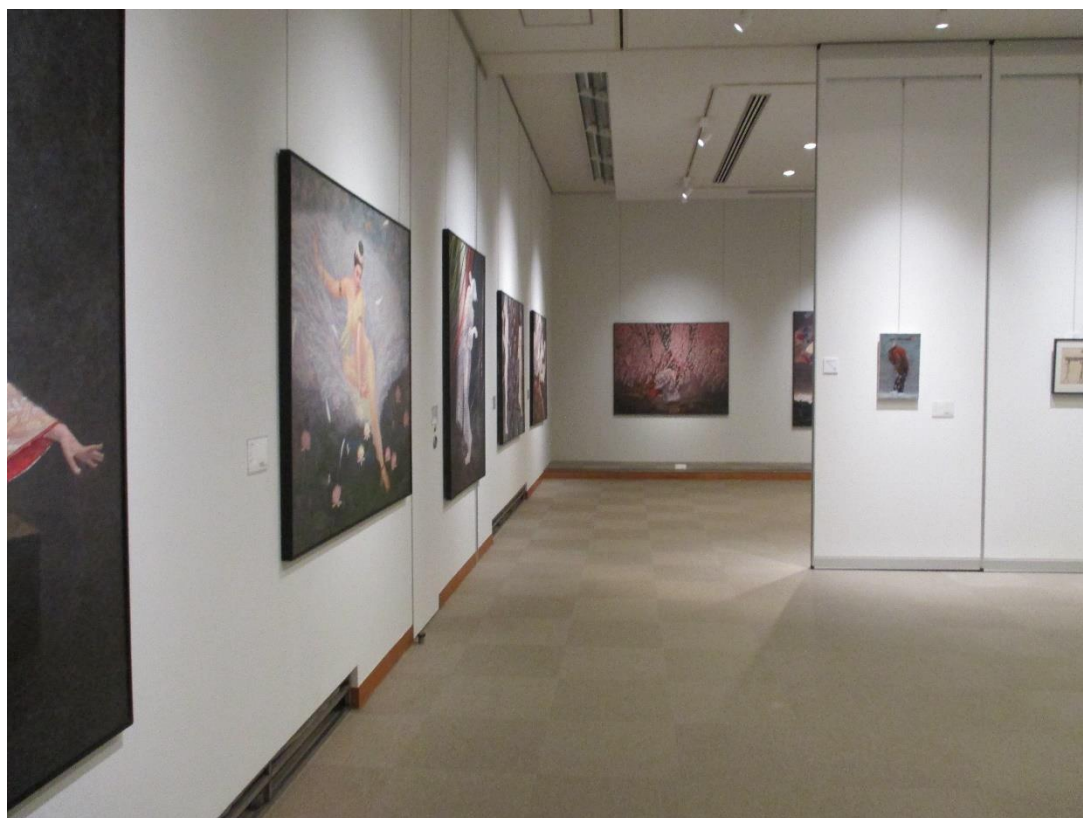
参考文献

『仲矢勝好作品 宮崎交通制作室の仕事』2023年、芝吹青位

「先生と呼ばれるほどのものでなく 一生では足らず、二生を生きる 井手知正」2021年、長谷川司
「仲矢勝好 略年譜」長谷川司

展示風景







展示風景



な か や か つ よ し
仲矢勝好と
宮崎交通制作室の仕事
2024.
10.12 (土) ▶ **11.10** (日)

会 場 | 高鍋町美術館
主 催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町
協 力 | 宮崎交通史料編集室
後 援 | 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎
0

企画展示室					
	作品名	作家名	所蔵先	制作年	素材・技法
1	渚	仲矢勝好	個人蔵	1951年	油彩・板
2	板ガラス	仲矢勝好	個人蔵	1956年	油彩・キャンバス
3	持国天	仲矢勝好	個人蔵	1960年代	油性鉛筆・紙
4	藁のコンチェルト	仲矢勝好	個人蔵	1961年	油彩・キャンバス
5	啓蟄	仲矢勝好	個人蔵	1980年	油彩・キャンバス
6	桜の花の下	仲矢勝好	個人蔵	1975年	油彩・キャンバス
7	喪失	仲矢勝好	個人蔵	1975年	油彩・キャンバス
8	かちかち山	仲矢勝好	個人蔵	1976年	油彩・キャンバス
9	題不明	仲矢勝好	個人蔵	1951年	油彩・キャンバス
10	無機質	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
11	旗の消える地点	仲矢勝好	個人蔵	1961年	油彩・キャンバス
12	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
13	題不明	仲矢勝好	個人蔵	1976年	油彩・キャンバス
14	安達が原 前シテ	仲矢勝好	個人蔵	1977年	油彩・キャンバス
15	施餓鬼	仲矢勝好	個人蔵	1978年	油彩・キャンバス
16	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	鉛筆・キャンバス
17	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
18	シジフォスの岩	仲矢勝好	個人蔵	1984年	ペン・紙
19	紙の舟	仲矢勝好	個人蔵	1958年	ペン・紙
20	みぞれ	仲矢勝好	個人蔵	1989年	油彩・キャンバス
21	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
22	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
23	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
24	霧島山	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
25	擣衣秋風	仲矢勝好	個人蔵	1981年	油彩・キャンバス
26	飛天蓮塘	仲矢勝好	個人蔵	1987年	油彩・キャンバス
27	乞巧奠	仲矢勝好	個人蔵	1982年	油彩・キャンバス
28	階前に持つ	仲矢勝好	個人蔵	1988年	油彩・キャンバス
29	夕鶴	仲矢勝好	個人蔵	1989年	油彩・キャンバス
30	綾の鼓	仲矢勝好	個人蔵	1990年	油彩・キャンバス

作品リスト

	作品名	作家名	所蔵先	制作年	素材・技法
31	春尽落飾	仲矢勝好	個人蔵	1990年	油彩・キャンバス
32	白い立夏の風	仲矢勝好	個人蔵	1991年	油彩・キャンバス
33	題不明（絶筆）	仲矢勝好	個人蔵	1992年	油彩・鉛筆・キャンバス
34	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
35	題不明	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
36	杳兆さん	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
37	けしとかすみ草	仲矢勝好	個人蔵	不明	油彩・キャンバス
38	題不明	仲矢勝好	個人蔵	1990年	油彩・キャンバス
回廊					
39	宮崎交通制作室によるポスター（22点）		宮崎交通史料編纂室蔵	1956～1972年頃	資料
40	6人展ポスター		宮崎交通史料編纂室蔵	1958年	資料
41	宮交バス 図案原画		宮崎交通史料編纂室蔵	不明	ペン・紙
42	書籍『ZUAN 図案の手帖』		宮崎交通史料編纂室蔵	1957年	資料
43	『続 無尽灯』版木		宮崎交通史料編纂室蔵	1972年	木
44	書籍『続 無尽灯』		宮崎交通史料編纂室蔵	1972年	資料
45	霧島高原ホテル道路開通披露会 会場附近想像図		宮崎交通史料編纂室蔵	1958年	鉛筆・ペン・紙
46	霧島高原ホテル道路開通披露会 会場見取図		宮崎交通史料編纂室蔵	1958年	鉛筆・ペン・紙
47	霧島高原ホテル道路開通披露会 試み		宮崎交通史料編纂室蔵	1958年	鉛筆・ペン・紙
48	霧島高原ホテル道路開通披露会 案内看板		宮崎交通史料編纂室蔵	1958年	鉛筆・ペン・紙
49	図案集		宮崎交通史料編纂室蔵	不明	資料
50	宮交シティ図案		宮崎交通史料編纂室蔵	不明	ペン・紙
51	都井岬直通バス広告		宮崎交通史料編纂室蔵	1959年	資料
52	都井岬直通バス広告 原画		宮崎交通史料編纂室蔵	1959年	油性鉛筆・紙
53	制作室作業カード（3点）		宮崎交通史料編纂室蔵	1980年	鉛筆・紙
54	書籍『デザイン』No. 50		個人蔵	1963年	資料
55	書籍『九州デザインコミッティ』		個人蔵	1972年	資料
休憩室					
56	窓をあけて九州・いつでも夢を 1982年3月14日放送		宮崎交通史料編纂室蔵	1982年	映像
エントランス					
57	書籍『ガイドみやざき』		個人蔵	1977年	資料
58	陶壁下絵		個人蔵	1987年	鉛筆・紙
59	「石井十次」素描		個人蔵	1983年	鉛筆・紙
60	壁画「ガリヴァー旅行記」		個人蔵	1981年	写真
61	緞帳エスキース		個人蔵	不明	鉛筆・水彩・紙

な か や か つ よ し
仲矢勝好と
宮崎交通制作室の仕事



《夕鶴》1989年

2024.

10.12 (土) ▶ **11.10** (日)

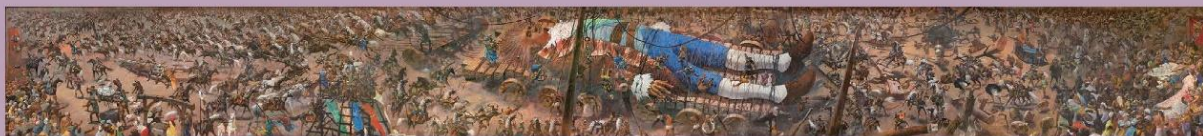


開館時間 10:00 - 17:00
(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日は除く) 祝日の翌日(土日は除く)
観覧料 大人 500円(400円)
小中高生・高齢者・障がい者 250円(200円)

本料金に常設展「観光と美術 自然・人工・人情の美」の観覧料を含む。()は20名以上の団体料金またはJAF会員証をご提示の方。高齢者は70歳以上、障がい者は障がい者手帳保持者とその介護者1名まで。未就学児と高鍋町在住または高鍋町内の学校に在籍する小中高生および特別支援学校生は無料。

主 催 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町
協 力 宮崎交通史料編集室
後 援 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送
UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

NAKAYA Katsuyoshi and Miyazaki Kotsu Co., Ltd. studio



《ガリヴァー旅行記》1977～1981年 ※写真での展示

県民に親しまれてきた、巨大なガリヴァー壁画*を手掛けた 仲矢勝好の初回顧展。*宮交シティ（宮崎県宮崎市）に設置

仲矢勝好は、1927年宮崎市に生まれました。宮崎市立宮崎商業学校を卒業後、映画館の看板製作に携わり、商工会議所で勤めたのちに、1948年宮崎交通に入社。広告、デザイン、イベントのアートディレクションなど宮崎交通に関する仕事を幅広く手がけました。なかでも、たった一人で約4年の制作期間を経て完成した宮交シティの壁画《ガリヴァー旅行記》は多くの県民から親しまれ、愛され続けています。その名は全国に知れ渡るところとなり、雑誌『デザイン』（1963年・美術出版社）、書籍『図案の手帖』（1976年・野ばら社）などにも取り上げられています。

その一方で、1955年に宮崎県美術展で初めての特選を受賞するなど、制作室での仕事とは別に、自身の表現世界も展開していきました。

本展では、宮崎観光ブームの陰の立役者として異彩を放った仲矢のアートワークと、そうした仕事とはまた一線を画し、制作し続けた荘厳な美しさを放つ絵画作品の双方を、一堂に展示するものです。



上段
《白い立夏の風》1991年
下段・左から
《桜の花の下》1975年
《題不明》1990年
《緩帳エスキース》制作年不明



仲矢 勝好 なかや かつよし

1927年宮崎県宮崎市に生まれる。1943年宮崎市立宮崎商業学校（現・宮崎商業高等学校）を卒業。在学中に絵を描き始める。1947年に映画館の看板製作に携わり、商工会議所に在職。1948年に宮崎交通に入社し、広告デザインを担当。1977年に壁画《ガリヴァー旅行記》に着手、1981年に除幕。1982年に宮崎交通を退社し、アトリエでの制作を本格的に始める。その後、県内外の施設の壁画や緞帳を手掛ける。1992年没。

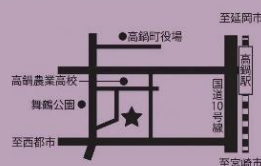


高鍋町美術館 TAKANABE MUSEUM OF ART

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1
TEL.0983-23-8887 FAX.0983-23-8890

交通案内

- タクシー
JR高鍋駅から約10分
- バス
JR高鍋駅から宮崎交通バス「一丁田
終由西都行き」で「舞鶴公園前」下車
徒歩3分または、「養崎」下車徒歩1分



常設展示室は撮影不可

仲矢勝好と宮崎交通制作室の仕事

会 期 令和6年10月12日（土）～11月10日（日）

開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）祝日の翌日（土日の場合は開館）

観覧料

大人 500 円（400 円）

小中高生・高齢者・障がい者 250 円（200 円）

※（ ）内は20名以上の団体料金またはJAF会員証をご提示の方。高齢者は70歳以上、障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。未就学児と高鍋町在住または高鍋町内の学校に在籍する小中高生および特別支援学校生は無料。

会 場 高鍋町美術館

主 催 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後 援 宮崎日日新聞社・MR T宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

作品数 61 点

職員（令和6年度）

館 長 島埜内 遵

副館長 佐藤 英伸

総務学芸係

係 長 中尾 英子

学芸員 青井 美保

事務員 梅田 朋子

普及事業

- 10月16日（水）回想法プログラムによる団体鑑賞（佐土原町いきいきサロン）
- 10月18日（金）障がい特性のある子どもと保護者への鑑賞支援についての意見交換会
（NPO 法人ぼくんちへおいでよ・宮崎県障がい者芸術文化支援センター・
障がい者の鑑賞を考える会）
- 10月23日（水）～10月25日（金）インターンシップ受け入れ
（宮崎県立佐土原高等学校産業デザイン科2年生）
- 10月30日（水）回想法プログラムによる団体鑑賞（田野町高齢者サロンさくら会）

写真提供

- よしみカメラ（p.33）
- 芝吹青位（p.39）
- 長谷川司（p.39）
- 宮崎交通史料編纂室（p.39）
- 宮崎県立美術館（p.39）
- 宮崎県総合博物館（p.39）
- 宮崎市役所（p.39）
- 宮崎空港ビル（p.39）
- 宮崎カントリークラブ（p.39）
- ニューウェルシティ宮崎（p.39）
- 高千穂町コミュニティセンター（p.39）

令和 7 年 2 月印刷

令和 7 年 2 月発行

発行者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1

TEL0983 (23) 8887

印刷者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1

TEL0983 (23) 8887

Printed in Japan ©高鍋町美術館 2025 ©2025,Takanabe Museum Of Art
